

第207回 全経簿記検定試験 上級 一工業簿記一 **解説**

模範解答・予想配点・解説等は、学校法人高橋学園が独自の見解によって作成しており、検定試験実施機関における本試験の解答並びに出題の意図を保証するものではありません。なお、予告なしにその内容を変更する場合がございます。ご理解いただいたうえで、ご利用ください。

問題1 個別原価計算

1. 材料関係 (問1、問2)

(1) 材料勘定の作成

		材 料	
前 月 繰 越	*1 3,920,000	仕 掛 品	*2 13,000,000
当 月 仕 入	*1 21,210,000	製造間接費(減耗費を含む)	*3 8,601,000
		材料消費価格差異 [差額]	95,000
		次 月 繰 越	*1 3,434,000
	<u>25,130,000</u>		<u>25,130,000</u>

(*1) 実際払出原価の計算過程 (先入先出法)

3,920,000 円	月初 800kg	当月消費 4,300kg	21,595,000 円
21,210,000 円	当月仕入 4,200kg	棚卸減耗 20kg	101,000 円
		実地棚卸 680kg	3,434,000 円
<u>25,130,000 円</u>			<u>25,130,000 円</u>

(*2) 仕掛品勘定への振替額

$$2,600\text{kg (直接材料消費量)} \times 5,000 \text{ 円 (予定単価)} = 13,000,000 \text{ 円}$$

(*3) 製造間接費勘定への振替額

$$\{4,300\text{kg (総消費量)} - 2,600\text{kg (直接材料消費量)}\} \times 5,000 \text{ 円 (予定単価)} + 101,000 \text{ 円 (棚卸減耗費)} = 8,601,000 \text{ 円}$$

(2) 材料勘定から各勘定への振替仕訳 (問1)

仕掛品勘定への振替

(借) 仕 掛 品	13,000,000	(貸) 材 料	13,000,000
-----------	------------	---------	------------

製造間接費勘定への振替

(借) 製 造 間 接 費	8,601,000	(貸) 材 料	8,601,000
---------------	-----------	---------	-----------

2. 賃金給料関係 (問3、問4)

(1) 賃金給料勘定の作成

賃金給料			
当 月 支 払	16,099,000	前 月 未 払	5,389,000
当 月 未 払 ^{*2}	5,752,800	仕 掛 品 ^{*1}	12,240,000
		製造間接費(割増分を含む) ^{*3}	4,188,800
		賃 率 差 異 [差額]	34,000
	<u>21,851,800</u>		<u>21,851,800</u>

(*1) 労務費予定消費額の計算過程

直接作業賃金：3,600時間(直接作業時間)×3,400円(予定賃率)=12,240,000円

間接作業・手待賃金：{4,820時間(当月作業時間)－3,600時間(直接作業時間)}×3,400円(予定賃率)

=4,148,000円

(*2) 未払賃金の計算過程

通常分：1,680時間(12/21～12/31の作業時間)×3,400円(予定賃率)=5,712,000円

割増分：30時間(時間外作業時間)×3,400円(予定賃率)×40%(割増率)=40,800円

合 計：5,712,000円(通常分)+40,800円(割増分)=5,752,800円

(*3) 製造間接費勘定への振替額

割増分の賃金は、通常発生するものではなく、繁忙期に生じたものであるため、賃率には含めない(加給金としない)。また、直接費か間接費かが不明なため、間接費として扱う。

4,148,000円(間接作業・手待賃金)+40,800円(割増分)=4,188,800円

(2) 賃金給料勘定から各勘定への振替仕訳 (問3)

仕掛品勘定への振替

(借) 仕 掛 品	12,240,000	(貸) 賃 金 給 料	12,240,000
-----------	------------	-------------	------------

製造間接費勘定への振替

(借) 製 造 間 接 費	4,188,800	(貸) 賃 金 給 料	4,188,800
---------------	-----------	-------------	-----------

3. 製造間接費勘定 (問5、問6)

(1) 製造間接費勘定の作成

製造間接費	
間 接 材 料 費	8,601,000
間 接 労 務 費	4,188,800
そ の 他 製 造 間 接 費	35,580,200
製造間接費配賦差異 [差額]	42,000
	<u>48,412,000</u>

予 定 配 賦 額 ^{*1}	48,412,000
	<u>48,412,000</u>

(*1) 予定配賦額

① 予定配賦率：49,000,000円(基準操業度の予算額)÷5,000時間(基準操業度)=9,800円

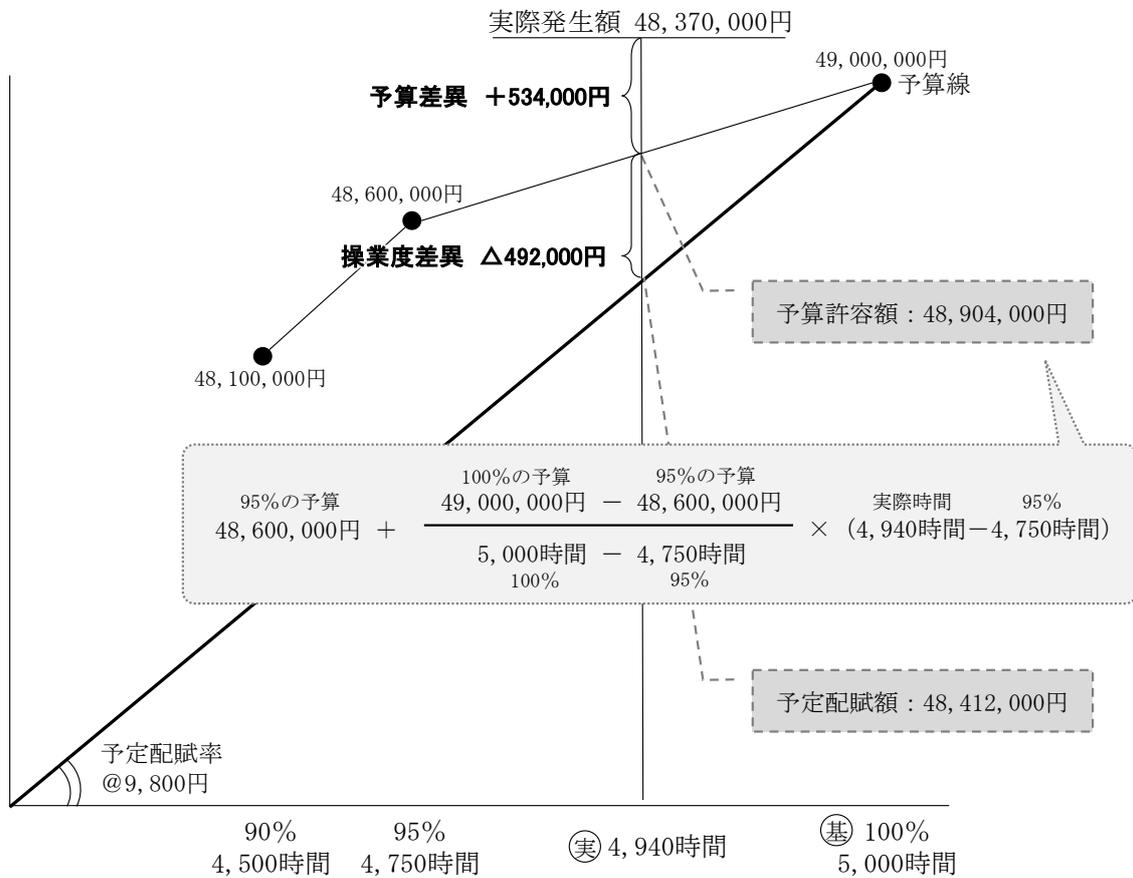
② 予定配賦額：9,800円(予定配賦率)×4,940時間(実際機械運転時間合計)=48,412,000円

(*2) 実際発生額 (問5)

8,601,000円(間接材料費)+4,188,800円(間接労務費)+35,580,200円(その他製造間接費)=48,370,000円

(2) 製造間接費の差異分析

実査法では、あらかじめいくつか予算額を立てておくが、実際操業度 4,940 時間の予算は立てられていないため、前後 (95%と 100%) の予算から、補完法により 4,940 時間の予算を推定する。このとき、予算許容額と実際発生額の差額が予算差異となり、予定配賦額と予算許容額の差額が操業度差異となる。



4. 個別原価計算 (問7)

(1) 個別原価計算表 (単位: 円)

	#1103	#1201	#1202	#1202R	#1203	#1203R	#1204
前月繰越	12,014,000	—	—	—	—	—	—
直接材料費	500,000	2,450,000	2,600,000	900,000	2,400,000	2,400,000	1,750,000
直接労務費	408,000	2,448,000	2,652,000	748,000	2,380,000	2,312,000	1,292,000
製造間接費	2,450,000	9,604,000	9,702,000	2,940,000	9,604,000	9,408,000	4,704,000
小計	15,372,000	14,502,000	14,954,000	4,588,000	14,384,000	14,120,000	7,746,000
仕損品評価額	—	—	—	—	△ 720,000	—	—
仕損費	—	—	4,588,000	△ 4,588,000	△ 13,664,000	13,664,000	—
合計	15,372,000	14,502,000	19,542,000	0	0	27,784,000	7,746,000
備考	完成	完成	完成	#1202へ	#1203Rへ	完成	仕掛中

(*) 仕損品評価額 (#1203) : 50 個 × 14,400 円 = 720,000 円

なお、#1202R は補修指図書であるため、評価額は存在しない。

(2) 正常仕損費 : 4,588,000 円 (#1202R) + 13,664,000 円 (#1203) = **18,252,000 円**

(3) 完成品原価 : 15,372,000 円 (#1103) + 14,502,000 円 (#1201) + 19,542,000 円 (#1202) + 27,784,000 円 (#1203R)

= 77,200,000 円

問題2 単純総合原価計算

1. 原価計算基準における正常減損費の処理方法（問1）

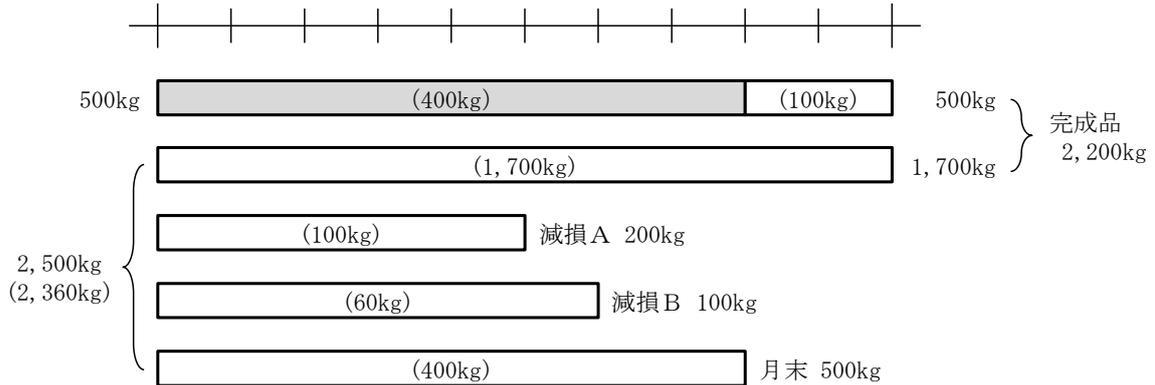
【原価計算基準 27 仕損および減損の処理】

総合原価計算においては、仕損の費用は、原則として、特別に仕損費の費目を設けることをしないで、これをその期の完成品と期末仕掛品とに負担させる。

加工中に蒸発、粉散、ガス化、煙化等によって生ずる原料の減損の処理は、仕損に準ずる。

上記の方法は、仕損費を計算せずに、関係品に自動的に負担させる、「**度外視法**」と呼ばれる方法である。

2. 工程イメージ図



※（ ）内は加工換算量を示す

⇒ 減損発生点と月末仕掛品の進捗度を考慮すると、減損A、減損Bともに両者負担となる。

3. 減損がすべて正常減損の場合（問2）

(1) 直接材料費

		直接材料費		
3,875,000円	月初	500kg	当月完成	
	当月投入	2,500kg	2,200kg	18,750,000円
19,250,000円	※度外視 ↓	2,200kg	正常減損	200kg ⇒計算しない
			正常減損	100kg ⇒計算しない
			月末	500kg
23,125,000円				4,375,000円
				23,125,000円

(2) 加工費

		加工費		
5,400,000円	月初	400kg	当月完成	
	当月加工	2,360kg	2,200kg	30,888,000円
31,152,000円	※度外視 ↓	2,200kg	正常減損	100kg ⇒計算しない
			正常減損	60kg ⇒計算しない
			月末	400kg
36,552,000円				5,664,000円
				36,552,000円

- (3) 月初仕掛品原価：3,875,000円(直接材料費) + 5,400,000円(加工費) = **9,275,000円**
- (3) 月末仕掛品原価：4,375,000円(直接材料費) + 5,664,000円(加工費) = **10,039,000円**
- (4) 完成品総合原価：18,750,000円(直接材料費) + 30,888,000円(加工費) = **49,638,000円**

4. 減損Bが異常減損の場合（問3）

① 正常減損費（減損A）を異常減損（減損B）に負担させないようにするため、異常減損費のみ先に計算する。

(1) 直接材料費

直接材料費			
19,250,000円	当月投入 2,500kg	異常減損 100kg	770,000円

(2) 加工費

加工費			
31,152,000円	当月加工 2,360kg	異常減損 60kg	792,000円

(3) 異常減損費：770,000円(直接材料費) + 792,000円(加工費) = **1,562,000円**

② 上記で計算した異常減損の数量と原価を除き、正常仕損費を負担させた計算を行う。

(1) 直接材料費

直接材料費			
3,875,000円	月初 500kg	当月完成 2,200kg	18,155,000円
	当月投入 2,400kg	正常減損 200kg	⇒計算しない
18,480,000円 (異常減損費を除く)	※度外視 ↓ 2,200kg	月末 500kg	4,200,000円
22,355,000円			22,355,000円

(2) 加工費

加工費			
5,400,000円	月初 400kg	当月完成 2,200kg	30,240,000円
	当月加工 2,300kg	正常減損 100kg	⇒計算しない
30,360,000円 (異常減損費を除く)	※度外視 ↓ 2,200kg	月末 400kg	5,520,000円
35,760,000円			35,760,000円

(3) 月初仕掛品原価：3,875,000円(直接材料費) + 5,400,000円(加工費) = **9,275,000円**

(4) 月末仕掛品原価：4,200,000円(直接材料費) + 5,520,000円(加工費) = **9,720,000円**

(5) 完成品総合原価：18,155,000円(直接材料費) + 30,240,000円(加工費) = **48,395,000円**

問題3 語句補充 解答を参照すること。